

サムエル記第一 (10)

「契約の箱の力」

1 サム 5 : 1~12

1. 文脈の確認

I. 王政に向けた準備 (1~9 章)

- A. サムエルの誕生と幼少期 (1 章)
- B. ハンナの賛歌 (2 : 1~10)
- C. シロでの霊的状况 (2 : 11~36)
- D. サムエルの召し (3 章)
- E. 契約の箱 (4~7 章)
 - 1. 奪われた契約の箱 (4 章)
 - 2. 契約の箱の力 (5 章)

2. 注目すべき点

- (1) 契約の箱がペリシテ人によって略奪された。
- (2) イスラエルは「神の栄光が去った」と理解した。
- (3) 契約の箱は、ペリシテの地で力を発揮する。

命題：【主】はご自身の栄光を守られる。

この箇所を 4 区分して学ぶと、それが分かる。

I. ダゴンの敗北 (1~5 節)

1. 1~2 節

1Sa 5:1 ペリシテ人は神の箱を奪って、エベン・エゼルからアシュドデまで運んで来た。

1Sa 5:2 それからペリシテ人は神の箱を取り、ダゴンの神殿に運んで来て、ダゴンの傍らに置いた。

(1) 歴史的背景 (詩 78 : 60~64, エレ 7 : 12, 26 : 9)

- ①ペリシテ人は、アフェクからシロに侵攻し、町を破壊した。
- ②特に、契約の箱を戦場に持ち込んだ祭司階級が厳しく処罰された。
- ③サムエルがどのように奉仕をしたかは、書かれていない。

(2) ペリシテ人の信仰

- ①多神教であるが、主神はダゴンである。
- ②ダゴンは、雨を降らせ、収穫を与える神である。
- ③礼拝する偶像神が多いほど、ご利益は大きいと信じていた。

④神の箱(契約の箱)をペリシテの地に運んできたのはそういう理由からである。

(3) 彼らは、神の箱をエベン・エゼルからアシュドデまで運んできた。

①そして、それをダゴンの傍らに置いた。

②ペリシテ人の神の優位性を示すためであった。

2. 3～4 節

1Sa 5:3 アシュドデの人たちが、翌日、朝早く起きて見ると、なんと、ダゴンは【主】の箱の前に、地にうつぶせになって倒れていた。そこで彼らはダゴンを取り、元の場所に戻した。

1Sa 5:4 次の日、朝早く彼らが起きて見ると、やはり、ダゴンは【主】の箱の前に、地にうつぶせになって倒れていた。ダゴンの頭と両手は切り離されて敷居のところにあり、胴体だけがそこに残っていた。

(1) 翌朝に起きた異変

①ダゴンが契約の箱を礼拝するような位置に倒れていた。

②ダゴンは、【主】の前に屈したのである。

③しかし、ダゴンの宮の祭司たちは、それを偶然に出来事と解釈した。

④そして、ダゴンを元の場所に戻した。

⑤恐らく、盗人が侵入しないように警戒を強めたと思われる。

(2) さらにその翌朝に起きた出来事

①前日と同じように、ダゴンは契約の箱の前に、うつぶせになって倒れていた。

②さらに、頭と両手は切り離されて敷居のところにあった。

③像が倒壊して頭と両手がばらばらになったわけではない。

④誰かが意図的に切断したのである。

⑤敷居のところに置いたのは、侮辱的行為である。

⑥宮に入る者は、敷居を踏んで中に入る。

⑦ダゴンは、理性（頭）と行動力（両手）を欠いた無力な偶像である。

3. 5 節

1Sa 5:5 それで今日に至るまで、ダゴンの祭司たちやダゴンの神殿に入る者はみな、アシュドデにあるダゴンの敷居を踏まない。

(1) 奇妙な習慣が生まれた。

①「今日に至るまで」ということばは、この記録の信頼性を証明している。

②ダゴンの宮の入る者はみな、敷居を踏まないようになった。

③彼らは、依然としてダゴンを主神として敬っている。

④ゼパ 1 : 9 (ペリシテ人の習慣を真似る者がいたのであろう)

Zep 1:9 その日、わたしは罰する。／すべて神殿の敷居を跳び越える者、／主人の家を暴虐と欺きで満たす者どもを。

II. アシュドデへの裁き (6～8 節)

1. 6 節

1Sa 5:6 【主】の手はアシュドデの人たちの上に重くのしかかり、アシュドデとその地域の人たちを腫物で打って脅かした。

(1) ペリシテ人たちは、学んだ教訓をすぐに実行に移さなかった。

①それゆえ、【主】はアシュドデへの裁きを実行される。

②人々は、腫物（疫病）で打たれた。

③今日の人たちも、悲劇が起こるまで行動に移そうとしない。

2. 7 節

1Sa 5:7 アシュドデの人たちは、この有様を見て言った。「イスラエルの神の箱は、われわれのもとにとどまってはならない。その手は、われわれとわれわれの神ダゴンの上に厳しいものであるから。」

(1) 腫物は激しい痛みといのちの危険をもたらした。

①アシュドデの人々は、事の経緯を見て結論を出した。

②イスラエルの神の箱を町から遠ざける必要がある。

③「その手」とは、【主】の力のことである。

3. 8 節

1Sa 5:8 それで彼らは人を遣わして、ペリシテ人の領主を全員そこに集め、「イスラエルの神の箱をどうしたらよいでしょうか」と言った。領主たちは「イスラエルの神の箱は、ガテに移るようにせよ」と言った。そこで彼らはイスラエルの神の箱を移した。

(1) ペリシテ人の領主 (5 大都市の領主) が集められた。

①契約の箱の処置について議論した。

②契約の箱をガテに移すことにした。

③この案は、問題解決にはならず、より問題を大きくした。

III. ガテへの裁き (9 節)

1. 9 節

1Sa 5:9 それがガテに移された後、【主】の手はこの町に下り、非常に大きな恐慌を引き起こし、この町の人々を上のも下の者もみな打ったので、彼らに腫物ができた。

(1) ガテは、アシュドデから約 20km 南東の町（イスラエルに近づく）。

- ①この町でも同じことが起こった。
- ②子どもから大人まで、【主】の手が下った。
- ③彼らに腫物ができた。
- ④非常に大きな恐慌を引き起こした。

IV. エクロンへの裁き (10～12 節)

1. 10 節

1Sa 5:10 ガテの人たちは神の箱をエクロンに送った。神の箱がエクロンにやって来たとき、エクロンの人たちは大声で叫んで言った。「私と私の民を殺すために、イスラエルの神の箱をこっちに回して来たのだ。」

(1) 契約の箱はエクロンに送られた。

- ①契約の箱よりも噂の方が先にエクロンに届いていた。
- ②エクロンの住民たちは、激しく抗議した。
- ③「私と私の民を殺すために、イスラエルの神の箱をこっちに回して来たのだ」

2. 11～12 節

1Sa 5:11 それで彼らは人を遣わして、ペリシテ人の領主を全員集め、「イスラエルの神の箱を送って、元の場所に戻っていただきましょう。私と私の民を殺すことがないように」と言った。町中に死の恐慌があったのである。神の手は、そこに非常に重くのしかかっていた。

1Sa 5:12 死ななかった者は腫物で打たれ、助けを求める町の叫び声は天にまで上った。

(1) ペリシテ人の領主たちが再び集められた。

- ①契約の箱の最終的解決は、イスラエルの地に戻すことである。
- ②町中にあった死の恐怖は非常に大きかった。

(2) エクロンの住民の叫び声は、天にまで届いた。

- ①それほど大きな叫び声であった。

結論：今日の信者への適用

1. 神はご自分を守るために私たちを必要とはしておられない

- (1) イスラエルは契約の箱を戦場に持ち込み、「神の力を利用しよう」とした。
- (2) しかし敗北した。
- (3) 5 章では、神はご自身の力だけでダゴンを打ち倒した。
- (4) ここには私たちへの警告がある。
 - ①自分が教会を支えている。

- ②自分が奉仕を守っている。
- ③自分が神の働きを成功させている。
- (5) 私たちは、神の働きの主人ではなく、しもべである。

2. 偶像は今も人の心を支配しようとしている

- (1) ダゴンは頭と両手を失った。
- (2) 偶像には考える力も行動する力もない。
- (3) 現代人の偶像
 - ①お金
 - ②地位
 - ③成功
 - ④健康
 - ⑤趣味
 - ⑥自己実現
- (4) 主はダゴンを倒されたように、私たちの心の偶像をも倒そうとされる。

3. 神の警告を軽視してはならない

- (1) アシュドデは警告を受けた。
- (2) しかし悔い改める代わりに、契約の箱をガテへ送った。
- (3) ガテも同じであった。さらにエクロンへ送った。
- (4) 彼らは問題を解決しようとはせず、問題を移動させただけであった。
- (5) 私たちも、罪の処理を先延ばしにしてはならない。

4. 神の栄光は必ず現される

- (1) 5 章にはイスラエル人が一人も登場しない。
- (2) イスラエルは敗北した。
 - ①エリは死に、
 - ②ホフニとピネハスも死に、
 - ③契約の箱は奪われた。
- (3) しかし実際には、神は少しも敗北していなかった。
- (4) 主はご自身の時に、ご自身の方法で、ご自身の栄光を現される。
- (5) 状況ではなく、主権者なる神を見上げよう。